みんなの広場

ご覧ください 広報テレビ番組

■所沢リポート
テレビ埼玉（UHF 38ch）
【放映日】
4月11日㈮
【放映時間】
①午後5時30分～40分
②午後10時15分～25分

▲明治・大正・昭和の懐かしい所沢の風景がいっぱいでした。「絵葉書で見る所沢の移り変わり展」。
3月7日㈮～13日㈭／中央公民館

▲45人が晴れの卒業を迎えた「所沢看護専門学校卒業式」。優しい心を持った看護師になってください。
3月8日㈯／所沢看護専門学校

街かどズームイン Zoom in

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「子ども」▶子どもを見ているとあきないですよね▶いきなり変な踊りをしたり歌ったり▶だが、よく考えると自分も同じことをやっていたんだろうなと思う▶子どものころの思い出や今の子どもに思うことなどお寄せください▶締め切りは4月11日㈮必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

▲昨年に引き続き、多彩な体験コーナーや講習会などでにぎわった「生涯学習フェスティバル」。
3月16日㈰／秋草学園短期大学ほか

▲一株一株違った色や形の雪割草。その可憐（かれん）な姿に皆さんは見入っていました。「雪割草展示会」。
3月8日㈯・9日㈰／中富民俗資料館

誰でもエッセイ テーマ“春”

ピンク色の山

久米・和泉　昭子

所沢に住んで30年になりますが、春になると思い出すのは“ふるさと”です。

私が育ったのは甲府盆地。ぐるりと高い山に囲まれ、北は八ヶ岳・南アルプス、遠くに見える富士山、そして冬は冷たい山おろし。

子ども心にも春を待ち続け、どこに行くのでもない春休みでしたが、ひとつだけ毎年毎年楽しみにしていたことがありました。

それは、東方に見える桃色の山です。突然、山が一面ピンク色に染まるのです。そして、母たちと「今年は暖かいから早く咲いたね」なんて喜びました。本当の山々の春の訪れです。

今でも、あのピンク色に染まった山を思い出すたびに心がウキウキして、子どもの時のことや青春時代、そして懐かしい友の顔が浮かんできます。

あの山は、今年もまた“桃源郷”となっていることでしょう。

ちょっと出かけてみませんか！

和ヶ原・中村　喜代美

昨夜までの雨も上がった3月8日、日ごろから不老川浄化に関係しているメンバーと氷辺の観察をしようと散策に出かけた。

集合場所の林神社には、満開の梅が抜けるような青空に映えていた。境内を流れている支流の谷川は、両岸も水底もコンクリートで固められ、ところどころに藻が生えている。

それでも春になると、祖母に連れられて入間川へセリを摘みに行ったり、山ハワラビなどを取りに行ったりした。

家は農家で、山のくず掘きや麦踏みが終わり、やがて庭の梅の古木に花が咲き、ウグイスが鳴いて確実に春はやってきた。野山には、木々が芽吹き、山桜が咲き、畑には菜の花。遠い昔、昭和32、33年のころであった。

今は昔と違い、花も果物も季節感は無くなってきたが、私の目のショボショボは昔と変わらずそのままである。

でも、自分の名前の付いた春が大好きである。

芽吹き

上安松・斉藤　節子

春の山林の芽吹きが好き。紅葉の華やかさと違い、淡いなんとも優しい色で春の訪れを告げてくれる。

早春の庭も好き。まだまだ寒さも残る庭のどこそこに春の訪れを告げてくれるスイセン、チューリップ、桜草。今まで土の中で眠っていたのにちょこんと芽を出している。

また、寒さの中にもどこか春を感じさせる陽を受けて、陽だまりの中でオオイヌノフグリのかれんな花が、枯れ草の中で誇らしげに、まるで宝石のごとく美しく咲いている。

ストレスいっぱいの世の中で、この一瞬一瞬の春の息吹をいつも感じられる心を大切にしたいな。

春とは…

下安松・大橋　英敏

俳句の会には、自信を持って次の句を出しました。

「春風や　主なき家の　冠木門（かぶきもん）」

そうしたら、俳句の先生からコテンパンにやられました。「ハルは晴です。また、発ともいって万物発生を意味するのです。この句は暗い」と。

そうだ、春は冬眠を脱して明るく華やいで、花も子どもたちの入学も卒業も…。よくわかりました、春が。

私は、そのときの青空に向かって拳を突き出し、大きく背伸びをしました。これが春なんだよと。

みんなをやさしく

小手指町・桧山　節子

季節の中で一番好きな春には、いろいろな花が咲き始め、寒い冬から暖かいやさしい日々に変わってくる。

ヘルパーとして数軒のお宅におじゃまして、庭の梅やスイセン、クロッカス、チューリップのつぼみを利用者の皆さんと掃除の合間に眺め、春を楽しんでいる今日このごろ。利用者の皆さんも春を心待ちにしているようです。

大変な時代を生きてこられ、心身ともに立派で、話をしていてともためになることを教えていただいています。

利用者の皆さんは、私たちヘルパーに元気をもらっているとおっしゃいますが、とんでもなく、私たちのほうが襟を正してその元気をいただいています。

春は、みんなをやさしくほっこりさせてくれます。私自身は、1年中春のような気持ちでいたいと思う。

遠い春の思い出

下富・細渕　春夫

春、それは私にとってつらい季節だ。「花粉症」子どものころそんな言葉があったか定かではないが、よく姉たちから「春（私のこと）は、風邪をひくと目がショボショボするからすぐわかる」と言われた。

今思えば、それは風邪ではなく花粉症だったと思う。

モンゴルの春

神米金・大島　ユキノ

春、春、春よ来い、早く来い。と春を待ち、空を眺めながら…。

春節（中国では旧暦のお正月）が過ぎると私たち外国人は、春待つ心でいっぱいです。

モンゴルの人は、長い冬の楽しみを知っています。満斗海公園の池も校庭も凍りつくと、スケートをする人でにぎわいます。3月になってもまだあちらこちらに雪が残っています。

でも、杏の植わっている街や校庭、草原でも杏の花が咲き始めます。それが一斉に咲くと、日本の桜のようです。また、白く霞がたなびくようです。

5月にかけては、ライラックやリンゴ、庭梅、牡丹などが開花してつかの間の春です。雪のモンゴルが一変に花のモンゴルに変わるときのうれしいこと。

楽しい春を迎えたときのうれしさ、優しくて親切な、そして明るいモンゴルの友人を懐かしんでおります。

次回のテーマは「子ども」です

リサイクルふれあい館 不用品ガイド

新リサイクルふれあい館が5月にオープンする予定のため、今回の不用品ガイドはお休みさせていただきます。

新リサイクルふれあい館は、再生家具の抽選頒布や不用品交換の登録窓口、さらに各種リサイクル教室や環境学習の拠点として情報発信機能もあわせもった施設になりますので、どうぞご利用ください。

◎詳しくは、後日広報でお知らせします。

問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎934-5374）

はつらつ ところ野老っ子

東城　穣さん
（青葉台在住）

夢は、ワールドカップで主審をすること

昨年、あらゆる難関を突破し、日本サッカー協会の1級審判員に昇格した東城　穣さんをご紹介します。

所沢生まれ所沢育ちの東城さんがサッカーを始めたのは、小学3年生の時でした。小学校・中学校・高校時代を通してずっとキーパーをやっていましたが、高校卒業後は、プレーヤーとしてではなく、子どもたちにサッカーを教えるという違った形でかかわってきました。

「子どもに教えるというより、自分も一緒になってボールを蹴りたい」という思いが強かったそうです。

少年サッカーチームで教えるために4級審判員の資格を取った東城さんは、その後、3級審判員の資格にもチャレンジし、合格しました。

「周りの人たちからも励まされ、こうなったら審判という道でサッカーの頂点までいってやる」と思った東城さんは、2級・1級にも挑戦を始めたのです。

まず2級の資格ですが、2年間で40試合の実績と厳しい試験に合格しなければなりません。

1級の資格は、それ以上の厳しさなのです。県サッカー協会主催の高いレベルの試合（県社会人1部リーグなど）や関東サッカー協会主催の試合を行い、それから強化審判員の推薦を受けて3～5年の実績（関東社会人リーグ・関東大学リーグなど）を積み、さらに1級審判員受験枠7人の中に入らないと試験を受けられないのです。1次から3次まである試験は、それぞれ合格しないと次の試験を受けられません。

こうしたさまざまな難関を乗り越え、東城さんは市内で初めて1級審判員の資格を手に入れたのです。

現在、中学校の先生をしている東城さんは、「審判活動が忙しくなると、中学校の部活動もあまり見られなくなるので子どもたちに悪くて…。」とちょっと困っているようすでした。

3月21日、東城さんはJリーグ（J2）の試合に副審として出場しました。これから活躍する東城さんに、大きな声援をお願いします。

Tokorozawa ものしりウォーキング ㊱ くすのき台・農村保健館跡碑

所沢駅東口近くの長者久保公園には、「農村保健館跡」碑があります。農村保健館は、昭和12年に公衆衛生の技術者養成機関として開設された施設です。今日の保健所の先駆けとなったもので、このことから所沢は保健所発祥の地といわれています。碑は、昭和52年に同館の創設40周年を記念して建てられました。もとは、くすのき台交差点西側に当たる保健館跡地にありましたが、区画整理により現在地に移されました。

そもそも、明治・大正時代の衛生行政は警察が管轄していたこともあって、日本では衛生指導やその技術者の養成の点で立ち遅れていました。昭和に入りようやく国立公衆衛生院が設立されることになり、その訓練機関として都市保健館と農村保健館が設置されることになったのです。設置場所として、都市保健館は東京市京橋（当時）、農村保健館は所沢が選ばれました。所沢が選ばれた理由は、当時所沢町外6か村（富岡村・山口村・小手指村・吾妻村・松井村・柳瀬村）による組合立の病院があって、その設備や活動が評価されたからでした。保健館は、組合立病院に隣接して建てられました。

その後、農村保健館は昭和16年に所沢保健所と改称され、保健所としての役割を本格的に担うことになりました。これまで、国内初の結核予防のためのBCG接種やツベルクリン反応判定基準の研究が行われるなど、重要な役割を果たしてきました。同39年に現在地のけやき台に新築移転し、建物はしばらく准看護学院と医師会事務所として使用されましたが、その後、区画整理事業により昭和56年に解体されました。

現在、所沢保健所の敷地には、「農村保健館跡」碑と同時に建てられた「保健所発祥之地」碑および「保健所発祥之地由来記」碑が建っています。前者の題字は、初代保健館長与謝野光が書いたものです。与謝野光の母は歌人与謝野晶子であり、三ヶ島葭子と交流があったことを考えると、所沢との縁を想わずにはいられません。